

- 2024 William L. DeAndrea 『スナーク狩り』真崎義博訳（早川書房，1988年，ハヤカワ・ミステリ文庫）

原題: Snark.

「あとの話は」（彼は部下たちに説明した）
「話すひまがあるときに聞かせてやろう
だが、もう一度いわせてくれ、スナークはすぐ近くにいる！
そいつを見つけ出すことが、諸君の栄光ある職務なのだ！」

指ぬきをもって捜せ、注意を払って捜せ
フォークと希望をもって追跡せよ
鉄道株をもってそいつの命を脅かせ
笑みと石鱈でそいつを金縛りにせよ！

スナークは奇怪な生き物だ。ふつうの
方法で捕まえることはできない。
それぞれがもてるすべての智慧を動員し、もちあわせていない智慧はすべて試せ
今日は、一瞬のチャンスも逃してはならない！」

——ルイス・キャロル
『スナーク狩り』八章からなる死闘（一八七六）第四章

p. 7

- 2025 Thom Demijohn 『黒いアリス』各務三郎訳（角川書店，1976年，角川文庫）

原題: Black Alice.

「おまえさんはだれだい？」と、イモムシがいました。
これは、話のきっかけとしては、あまりいい兆しではありません。アリスは、すこし恥ずかしそうに答えました。「わたし……わたし、いまのところ、よくわからないんです——今朝目が覚めたときだれだったかということなら、わかっているんですけど、でもそれから何回も何回も変わっちゃったらしいものですから」
「いったいそれはどういうことだ？」とイモムシが、ことばするどくいいました。「はっきりわかるように説明せんかい！」
「それが、自分でも説明できないのです。すみませんけど」とアリス。「なぜって、おわかりでしょう、わたし、わたしじゃないものですから」
「わからんね」とイモムシがいます。

ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』（福島正実訳より）

p. 4

- 2026 Gerald Malcolm Durrell 「長い白雲の国 ニューゼaland動物散歩」川口正吉訳（『ノンフィクション全集』7（筑摩書房，1974年）p. 147-235）

原題: Two in the Bush.

いったんあのヤケクソの鳥ジュブジュブに出会ったら／われわれはそれこそこの作業に全力を尽さなければならないだろう！

——スナーク狩り

p. 158